

第七章 災害

大川村は、自然災害に対して脆弱な中山間に位置しており、これまで地震や豪雨による崩壊をはじめ、様々な被災を経験してきた。大川村成立以前の近世の記録としては、大平の延命寺の寺領田記のなかに、寛延元年（一七四八年）に豪雨によって、大規模な土砂災害が起きたことが記されている。明治二二年の大川村成立以後の大きな災害としては、昭和二二年の南海大地震により、川崎地区のつえ谷で大きな地形の崩壊があったことが知られている。その後、昭和二八年から三三年にかけて、つえ谷には県によって堰堤が四基建設された。しかし、昭和五一年九月の台風一七号による豪雨により再び大規模な崩壊が発生した。つえ谷の「つえ」は「潰れる」の短縮形が語源であるといわれることに象徴されるように、大川村には災害常習地域が少なからず存在する。大川村は昭和四五年、昭和四七年、昭和五〇年、昭和五一年と立て続けに豪雨や台風による被害を受けている。早明浦ダムの建設および白滝鉱山の閉山によって大川村が岐路に立っている時に、これら一連の災害がもたらした被害は甚大で、もう「村は再起不能」といわれるほどであったという。昭和五〇年代前半、新しい村づくりが開始していた頃、大川村の村政はこれらの災害からの復旧にも早急を要した。白滝開発を中心とした新しい村づくりに向けた取り組みは出遅れ、昭和五〇年後半まで待たなければならなかった。

注

- 1 大川村史追録編さん委員会（編）「大川村史」（一九八三年）、三〇六頁。
- 2 高橋尚城・細木亮介・白川勝「大規模崩壊地つえ谷の調査と対策」砂防学会誌 三八（四）：二八―三二（一九八五年）、二八頁。落合文登・立石耕一・森和夫・坂本省吾「大規模崩壊発生地の地形・地質的要因と土砂生産機構——四国山地結晶片岩地域の崩壊例」日本応用地質学会中国四国支部 発表論文（一九九五年）。
- 3 「つえ谷」は四国の地すべり・崩壊地に広く見られる地名である。
- 4 昭和四五年の台風一〇号により、一人が死亡したほか、上小南川発電所社宅四戸が全壊した。
- 5 昭和四七年九月には、秋雨前線と熱帯低気圧により豪雨となった。九月八日、大川村では上小南川および川口で土石流が起り、死者二人と負傷者五人のほか、住宅の全半壊三戸の被害を出したほか、発電所が七日間にわたり不能に陥った。建設局四国地方建設局四国山地防砂工事事務所（編）「ここに人あり、山河あり 吉野川直轄防砂三十周年」（二〇〇一年）。
- 6 朝倉慧「つくられた過疎に挑戦して四〇年」（高知県町村教育長会研修資料）（日付なし）。

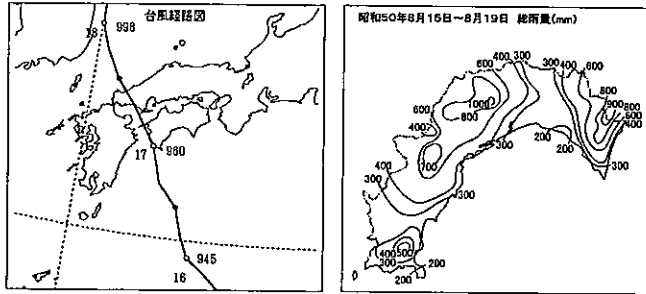
昭和五〇年八月の台風五号、六号

昭和五〇年八月には、台風五号および台風六号が立て続けに来襲した。グアム島西方約四〇〇kmの海上で熱帯低気圧が発達し、八月一二日に発生した台風五号は、北上を続けた後に北西に進路を変えて、八月一七日午前八時五〇分に宿毛に上陸した（図表7-1）。この時、中心気圧九六〇hPa、最大風速四〇m/sで、中型の台風に衰えていたが、県西部を中心に甚大な被害をもたらした。八月一五日から一九日までの総雨量は、村内各地で八〇〇〜一〇〇〇mmであった。続いて、台湾付近で発生した二つの熱帯低気圧をもとに八月一九日に発生した台風六号は、蛇行した後に北東ないし北北東に進路をとり、二日二二時頃に足摺岬の南方を通過した。この頃には中心気圧九七〇hPa、最大風速三五m/sで、二三日〇時三〇分には徳島県をかすめて淡路島方面に向かっていった。直撃を免れたこともあり、台風五号に比して高知県内の被害は少なかったが、各地で避難生活をしていた人々に追い打ちをかけた。

両台風により高知県には広範に被害が及んだが、大川村では台風五号による被害を中心に、死者四人と負傷者四人、住宅の全壊一戸（三棟）、住宅の半壊一戸（一四棟）の被害がもたらされた。死者四人は、台風五号による崩壊で半壊した、上小南川地区川口の一帯の住民で、負傷者も同一世帯から出た。全半壊の家屋は大藪および小麦畝に多く、大藪で全壊六戸と半壊三戸、小麦畝で全壊三戸と半壊四戸であった。その他には、下小南川に全壊一戸と半壊一戸、下切に全壊一戸、大平に半壊二戸、井野川に半壊一戸であった。八月二二日には、新たに接近する台風六号に備えて、村内危険区域に避難生活の継続が指示され、八月二二日一七時の時点で七三世帯二四三人が、大川中学校ほか各地区の避難所に避難していた。

台風五号による崩壊は村内広範囲にわたって認められ、道路への被害は、小松地区以西の県道一七号沿いと対岸の村道を中心に村内全域に認められた。県道を除く被害箇所は、村道二箇所、林道二五箇所、農道一六箇所の合計六三箇所であった。また、家

図表7-1 昭和50年、台風5号の経路図および雨量総量



経路図で左の数字は日付、右の数字は中心気圧(hPa)、○は09時、●は21時の地点を表す。高知気象台ホームページより抜粋 <http://www.jma-net.go.jp/kochi/koutinokisyuu/kakosaigai/19750817/19750817.html> (平成29年8月31日閲覧)。

屋、道路、公共施設、農地と林地における被害総額および各地において必要となった治山治水工事のための必要経費の総額は、二億五九二四万二〇〇〇円と概算された。即座の予算措置としては、災害救助法に基づき災害救助費四〇〇万円余りが請求され、大蔵地区に五戸と小麦畝地区に二戸の合計七戸の応急仮設住宅が建設されたほか、避難所の設置や被災者の遺体の埋葬が行われた。

八月一五日夜の台風五号による暴風波浪警報の発令から、八月一七日夕方の避難勧告を経て、八月二三日早朝の避難勧告解除に至るまでの一連の対応および村内各地の被災の経過は図表7-2の通りである。

- 注
- 7 伊野町では、死者三人、重傷者一人、軽傷者三五人、建物の全壊二八戸、半壊一〇〇戸、床上浸水二〇八三戸という記録的な被害であった。伊野町(編)「昭和50年台風災害 25年記録誌」(二〇〇一年、九〇頁)。
 - 8 「被災者名簿」大川村産業振興課「昭和五〇年八月 台風五・六号災害関係文書」(一九七五年)所収。
 - 9 「家屋被害状況」大川村産業振興課「昭和五〇年八月 台風五・六号災害関係文書」(一九七五年)所収。
 - 10 大川村災害対策本部「台風五号・六号による被害状況調査」大川村「昭和50年8月17日 台風五号災害救助費関係」(一九七五年)所収。
 - 11 大川村から高知県知事清淵増地あて「災害救助費の概算交付請求について」(昭和五〇年一月二日) 大川村「昭和50年8月17日 台風五号災害救助費関係」(一九七五年)所収。
 - 12 大川村災害対策本部「昭和五〇年五号・六号関係記録(抜粋)」大川村「昭和50年8月17日 台風五号災害救助費関係」(一九七五年)所収をもとに作成。

日付	時間	事項
八月一八日	〇時〇五分	嶺北消防大川・本川出張所より連絡あり。下切の高敷発電所用水取入口の住宅が流出するも、住民無事。大数の家屋一戸に土砂流入の被害あり、集会所に避難。
	六時〇〇分	大川局電話開通、小松団地住民帰宅。
	六時一〇分	消防救助艇役場前を出発し、上小南川川口へ向かう。村長と助役が同乗。七時二〇分に、同地区到着。
	八時〇〇分	井野川農協支所に現地対策本部を設置。
	八時四五分	早明浦ダム管理所の巡視艇が役場前に到着。嶺北消防署員が同乗。
	九時〇〇分	上小南川川口の負傷者四人のうち重傷者二人が消防艇で役場前に移動。ここから早明浦ダム管理所の巡視艇に移乗し、土佐町に移動。さらに救急車で高知市の近森病院へ搬送、入院。
	九時五〇分	小松一田井間の県道一七号線復旧。
	一〇時二五分	上小南川川口の負傷者残り二人のうち一人が、消防救助艇で役場前到着。救急車で高知市の近森病院に搬送。
	一〇時三〇分	川崎までの道路復旧。川崎第一橋から第二橋間を消防救助艇で連絡。
	一九時三〇分	災害対策協議会開催。被災状況の取りまとめ。
八月一九日	一〇時三〇分	上小南川川口で死亡した四人の遺体が役場前を通過。高知市に移送され、火葬される。
	一四時〇〇分	災害救助法適用。村長が大蔵地区に向かう。
	一九時〇〇分	災害対策協議会開催。課長以上が出席。
八月二〇日	八時三〇分	消防船戸分団、西部支援のため、井野川農協支所の移動本部へ出動。農協組合長が大蔵へ。食料および日用品の不足状況調査のため。

図表7-2 昭和五〇年、台風五号および六号に対する対応および被災の経緯

日付	時間	事項
八月一五日	二二時三五分	暴風波浪警報発令の連絡。
八月一六日	八時〇〇分	災害対策本部開設、第一配備。
	一五時〇〇分	第二配備、全村四箇所で暴風雨警報サイレン吹鳴。
	一八時〇〇分	第三配備、住宅災害危険箇所にて避難勧告。
	八時〇〇分	県災害対策本部より各市町村長への指示。
	八時五〇分	台風五号、宿毛市付近に上陸。各地区の災害情報責任者および住宅災害危険箇所各戸に台風の情報や伝え、避難状況を確認。
	一五時一八分	暴風警報解除、大雨警報発令の連絡。
	一六時三〇分	全村に避難勧告。
	一七時〇〇分	県災害対策本部より市町村長への指示。
	一七時三〇分	上小南川地区川口で住宅一戸崩壊。負傷者一人、行方不明者二人との電話連絡あり。
	一七時四〇分	小松団地住民、大川中学校に避難。
	一七時五〇分	上小南川地区川口より、死者二人、行方不明者二人、負傷者二人の電話連絡あり。直後に同地区からの通信途絶。
	二二時三〇分	小松地区以西の県道一七号線および村岸村道各所に崩土あり交通途絶。風雨が強くなる。
	二二時三〇分	上小南川川口における被災状況の通報あり。六人が生き埋めとなり、一人程度で救助に当たっている。
	二二時三〇分	大川局電話交換要員、大川中学校に避難。
	二二時三〇分	上小南川川口における被災者氏名確認。四人が亡くなり、三人が負傷。川口公民館に遺体を安置し、同所で診療所看護婦が負傷者の応急手当をする。

日付	時間	事項
八月二〇日	一六時三〇分	井野川農協支所に、電話一箇所開通。
	一七時〇〇分	大蔵地区へ食料および日用品等の搬入終了。井野川農協支所から小麦畝までは小型トラックで運搬。
	一九時〇〇分	災害対策協議会開催。課長以上が出席。
八月二一日	一九時〇〇分	台風六号接近。
	一四時〇〇分	県災害対策本部より各市町村長への指示。
	一五時〇〇分	全村危険地区に対し、台風六号に備え引き続き避難するよう指示。
	一七時一〇分	大雨警報発令。
	一九時〇〇分	災害対策協議会開催。課長以上が出席。
八月二二日	二二時〇〇分	現在避難者確認。七三世帯、二二八人。
	一時三〇分	暴風雨・洪水・波浪警報発令。
	六時三〇分	小松団地住民で大川中学校に避難中の者は一旦帰宅。昼食と夕食を持って正午までに再び避難するように指示。
	七時三〇分	県災害対策本部より各市町村長への指示。
	一三時〇〇分	本川村で遭難した東京農大生を移送するため、消防救助艇が役場前を出発。
	一三時四五分	東京農大生一人および付添二人、役場から救急車で出発。土佐町の山口病院へ移送。
	一七時〇〇分	現在避難者確認。七三世帯、二四三人。
	一九時〇〇分	災害対策協議会開催。課長以上が出席。
八月二三日	二時一〇分	暴風雨・洪水警報解除。
	五時〇〇分	避難勧告解除、消防団員解散。
	一五時〇〇分	救援物資到着。
	一九時〇〇分	災害対策協議会開催。課長以上が出席。

昭和五十一年九月の台風一七号

翌年の昭和五十一年九月三日、ミクロネシアのチューク諸島北西海上で発生した台風一七号は、北西に進路を取り、八日には南大東島の南海上に中心気圧九一〇mm、最大風速六〇m/sの勢力を保っていた。その後北北東に進路を取り、一三日一時四〇分に長崎市に上陸した。この過程で西日本では前線が停滞し、一〇日夜から一二日朝にかけて高知県では中部および東部で豪雨に見舞われた(図表7-13)。高知市内では、大谷山が崩壊し、円行寺川に土石流が流れ込み民家が流出したほか、鏡川の増水と満潮が重なったことで全域に浸水被害が出た。

前年の台風被害から復興過程にあった大川村でも、大規模な崩壊があったほか、村道小北川線、農道南野山線、林道方田線、林道大平線、林道長沢―川口線、林道大藪線など、村内の村道、農道、林道に広範に被害が出た。幸い人的被害はなかったが、家屋全壊が四棟、半壊が一棟あった。大北観測所のデータでは、九月八日から一二日までの連続雨量は一六四九mmで、九月一日には過去二〇年間で最高の日雨量五〇〇mmを記録した。この豪雨により、川崎地区のつえ谷で大きな崩壊が多発し、既存の堰堤が崩壊し(写真7-1)、多量の土砂が吉野川本流に流出した。つえ谷の崩壊土量は一一・七万㎡と推定され、その後、新たな砂防堰堤の施工中であった昭和六〇年当時でも不安定土砂量が二五・〇万㎡あると概算されている。流出した土砂によって既設堰堤が被害を受け、高敷発電所の敷地近くまで本流水位が上昇するなど、周辺部にも被害をもたらした。この被害がきっかけで、昭和五二年四月からは、四国山地砂防事務所による吉野川上流域の調査が行われ、昭和五四年四月には吉野川上流域が直轄区域に編入され、多くの砂防施設が建設されていった。

注 13 高知地方気象台のホームページ「昭和五十一年台風第17号(1976年9月8日～13日)」<http://www.jma-net.go.jp/kochi/koutinokisyou/kakosagai/19760908/19760908.html> (二〇一七年八月三十一日閲覧)。

14 落合文登・立石耕一・森和夫・坂本省吾「大規模崩壊発生地の地形・地質的要因と土砂生産機構―四国山地結晶片岩地域の崩壊例―」日本応用地質学会中国四国支部 発表論文(一九九五年)。

15 高橋尚城・網木亮介・白川勝「大規模崩壊地つえ谷の調査と対策」『砂防学会誌』三八(四)：二八―三二(一九八五年)、二八頁。

16 「四国山地砂防事務所『あふみ』」<http://www.skr.mhl.go.jp/sabo/office/history.html> (二〇一七年八月三十一日閲覧)。

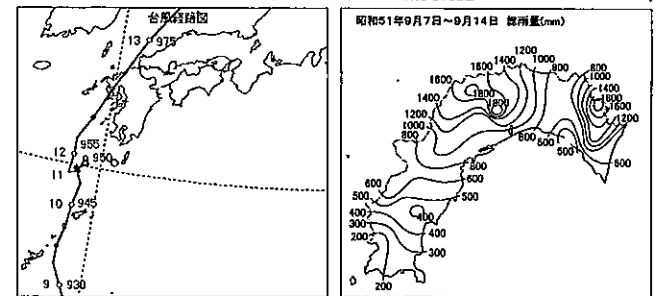
平成一六年の早明浦豪雨

昭和五〇年代の台風被害と同様に、大川村は平成一六年にも八月中旬から下旬にかけて台風一五号および台風一六号による被害を広範囲にわたって受けた。特に台風一五号がもたらした猛烈な降雨は早明浦豪雨と呼ばれ、村内各所に崩壊をもたらしたほか、多数の訪問者が滞在していた白滝地区が孤立した。この年、昭和五八年以降実施されてきた謝肉祭が初めて中止になったことから、これらの台風による被害がいかに甚大であったかを窺い知ることができる。

平成一六年八月一六日一五時、台風一五号はフィリピンの東海上で発生し、一七日には中心気圧九八〇mm、最大風速三五m/sで久米島の西海上を通過、東シナ海に進んだ。一九日には九州の西海上を通過して、日本海を北東に進み、二〇日午前六時過ぎには青森県津軽半島に上陸、同日一八時には根室の南東海上で温帯低気圧に変わった。台風一五号により、四国地方および九州地方で豪雨となり、吉野川上流域では三日間の総雨量が一〇〇〇mm以上の記録的な豪雨となった。大川村小松雨量観測所では、一七日一六時から一八時までの二時間で、二〇五mmの雨量を観測した。

豪雨により発生した土石流により、四国地方では愛媛県および香川県で死者九人が出た。大川村でも各地で崩壊が発生したが(写真7-2)、幸い死者は出なかった。そ

図表7-3 昭和51年、台風17号の経路図および雨量総量



経路図にて左の数字は日付、右の数字は中心気圧(hPa)、○は09時、●は21時の地点を表す。高知気象台ホームページより抜粋 <http://www.jma-net.go.jp/kochi/koutinokisyou/kakosagai/19760908/19760908.html> (平成29年8月31日閲覧)。

れでも、大北川地区で民家の車庫が土砂で潰され、住民が負傷するなど、村内で二人の負傷者が報告されている(写真7-13)。家屋等の全壊および半壊は八件あった。船戸地区の桃ヶ谷では河川増水により家屋が一戸流出した。また同地区にあった森林組合倉庫は土石流により流出した。白滝の里の自然教育センターには、学習塾「土佐塾」の小学生一三四人と講師一四人の合計一四八人とふるさとむら公社職員九人が滞在していたが、各所の崩壊により孤立状態に置かれた。八月一八日〇時三〇分時点で確認された避難者数は二九五人で、指示等に基づく避難所への避難者が大川中学校体育館に一一八人、船戸小学校運動場に八人、川口生活改善センターに三人の合計一二九人、民家での避難者や自主避難者が上中切民家に一人、船戸民家に二人、朝谷の民家に六人、そして白滝の里に一五七人の合計一六六人であった。八月一八日一八時三〇分には災害救助法の適用が決定された。避難指示は一九日の午後一時五〇分に解除された。

崩土、路欠、土砂流出などによる道路への影響は広範にわたり、八月一九日一七時の時点で、県道本川―大杉線の小松から船戸までの間に一一箇所、同線の井野川から高野までの間に八箇所、県道大川―土佐線の下小南川から小松までの間に一五箇所、県道高知―伊予三島線の小松から大北川までの間に一九箇所認められた。これらの被害に対しても、災害救助法に基づき災害救助費の請求が行われた。その後、局地激甚災害の指定を受けて復興支援がなされた。

白滝で孤立した多数の小学生を陸路で救出することは困難であった。一八日早朝の時点で報告によると、自然教育センター下の谷は土砂で埋まり、竹林付近は崩壊し、施設のローラースライダーが壊れていた。里の茶屋では切れ目が広がり、農園に行く途中の石積みが崩壊寸前で、肉用牛肥育センター付近にも複数の崩壊が認められた。朝谷地区の住民も孤立し、民家一軒に避難していたが、そこも危険になったため八月一八日の九時過ぎに白滝の里の自

然教育センターに移動した。八月一九日正午過ぎに県の防災ヘリコプターが出動し、孤立していた小学生らをピストン輸送で救出し、一八時過ぎまでに土佐町田井などへの移送を終えた(写真7-14)。一八時過ぎには大阪府八尾空港から自衛隊機も到着し、自然教育センターに避難していた住民たちを大川中学校に移送した。

八月一七日午後の大雨洪水警報発令から、避難勧告および避難指示の発令を経て、八月一九日夕刻の白滝の孤立者救出に至るまでの経過は図表7-14の通りである。台風一五号による被害は特に甚大であったことから、全国の市町村、各種団体、企業、個人等から見舞金、寄付金、義援金が寄せられ、平成一六年八月二〇日から翌平成一七年七月二一日までの間に合計一五四〇万四九一円が集まった。このなかには、長期ふるさと留学をしていた卒業生有志から寄せられた見舞金も含まれていた。また、被災直後には各地から援助物資が届けられ、避難所での村民の生活を支えた。

大きな被害のあった台風一五号に続いて、八月三〇日には台風一六号が接近した。八月一九日にマーシャル諸島近海で発生し、西へと進路をとっていた台風一六号は、八月三〇日一〇時に中心気圧九五〇hPa、最大風速四〇m/sで鹿児島県に上陸して九州を横断一七時過ぎには山口県防府市付近に再上陸して北北東に進んだ。八月二七日から三一日にかけて四国の全域で豪雨となり、高知県下でも広範な被害があった。大川村では、八月三〇日午前八時に小松地区の二四世帯四五人に対して避難勧告が発令され、全世帯が大川中学校に避難している。

注

17 国土交通省四国地方整備局四国山地砂防事務所「平成一六年台風一五号による吉野川上流域の被災状況」(二〇〇四年)。

18 「早明浦豪雨災害記録」(二〇一一年八月一日現在)「大川村」平成一六年度「災害豪雨関係」(二〇〇四年) 所収。

19 「平成一六年度八月十九日大川村関連道路状況」17:00現在

20 「早明浦豪雨災害記録」(二〇一一年八月一日現在)「大川村」平成一六年度「災害豪雨関係」(二〇〇四年) 所収。

21 「災害見舞金一覧表」大川村「平成一六年度八月十七日発生台風一五号災害関係(概要・見舞い金等一覧・手紙等)」(二〇〇五年) 所収。

22 大川村では早明浦豪雨からの復興途上にあった翌年にも台風被害を受けた。平成一七年九月六日、台風一四号による豪雨により、午前一一時四〇分に村内全域に避難勧告が発令されたが、特に雨が降ったのは村内西部であったこと、倒木などで避難ができない状況にあったことから、実際に避難をしたのは村内全域で四五世帯、八四人に留まった。

図表7-4 平成一六年、台風一五号に対する対応および被災の経緯

日付	時間	事項
八月一七日	一四時〇五分	大雨洪水警報発令。
	一五時三〇分	井野川に避難勧告。
	一六時〇〇分	川崎に避難勧告。
	一六時一七分	災害対策本部設置。
	一六時二〇分	小松団地に避難勧告。
	一六時四五分	大北川地区の住宅付近で土砂崩れ、車が埋まつたとの連絡あり。住民一人がけが、近隣民家へ避難。
	一六時五〇分	オフトークにより避難勧告の放送。
	一七時〇〇分	中切地区に倒木あり、避難所に行けないと連絡あり。
	一七時〇五分	高野地区の住宅横の谷が崩壊と連絡あり。
	一七時一五分	白滝地区への電話不通。白滝の里に一四八人の宿泊者と九人の職員がいる。
	一七時三〇分	オフトークにより小松地区四二世帯九三人に避難指示。
	一七時三五分	電話不通。
	一七時四〇分	能谷で岡村組関係の車四台立ち往生の連絡。
	一八時〇五分	大川中学校教員住宅裏で山崩れ。建物への被害はなし。
	一八時三五分	船戸の森林組合倉庫付近が崩壊していると連絡あり。
	一八時四〇分	停電用電話復旧。役場前道路冠水。
	一八時四九分	大川橋の消防車を取りに行く。
	一八時五〇分	四国電力から連絡あり、道路が寸断されているため復旧に時間がかかること知らされる。
	一九時〇〇分	船戸地区鈴ヶ瀬で住宅一戸流出。住民は無事。
	一九時〇五分	能谷で立ち往生していた岡村組関係者、本川村脇の山を経由して避難。

日付	時間	事項
八月一七日	一九時一五分	嶺北消防より連絡あり。大北川地区の土砂崩れでけがをした住民一人の救出は現時点では困難。明日へりと船で搬出を検討することに。
	一九時二五分	大川中学校体育館に炊き出しの搬送。
	一九時四〇分	平石雨量計付近、中川あたりに崩壊と連絡あり。水資源機構職員等三人を川口生活改善センターに避難させる。
	二〇時〇〇分	中学校電話、発電機で復旧。
	二〇時一一分	親水公園付近で崩壊あり。
	二二時三〇分頃	電気電話復旧。
	二二時〇七分	桃ヶ谷の岡村組資材置き場に避難している人の救出に向かう。二四時一〇分に大川中学校へ到着。
八月一八日	二二時二五分	出張中の村長へ帰村が必要である旨、連絡。
	〇時三〇分	現在避難者数確認。大川中学校体育館、船戸小学校運動場、白滝の里、民家などに合計二九五五人。
	五時五〇分	白滝の状況確認。自然教育センター周辺で被害多数。民家への土砂の流出もあり。
	七時一〇分	本山警察署より連絡あり。水資源機構の巡視艇で向かつてきている。
	七時一五分	県対策本部設置。
	九時二五分	住民が自主避難していた朝谷の民家が危険になり、白滝の自然教育センターに移動したと連絡あり。
	一一時一五分	大北川地区の土砂崩れでけがをした住民一人が巡視艇で救出され、日赤病院に搬送される。
	一一時二〇分	消防団員一〇人が食料を持参して出発。道を作りながら白滝へ上がっていく。道路状況が悪く、結局白滝に到着できず。消防団長は、大北川地区の住民一人とともに小松に戻る。
	一二時三〇分	先発隊の消防団員三人が白滝到着。

日付	時間	事項
八月一八日	一四時一〇分	村長、出張先より帰村。
	一七時〇〇分	現在避難者数確認。大川中学校体育館、船戸小学校運動場、白滝の里、民家などに合計二六三人。白滝の孤立続く。
	一九時五〇分	白滝に宿泊中の生徒一人、虫垂炎の疑いありと連絡。
八月一九日	四時四五分	白滝の里の宿泊者一四八人の搬送のため、高知県防災課へ防災ヘリ要請。七時に飛行が可能かどうか判断されることに。
	五時三〇分	大川中学校避難者に対して本部から指示があるまで待機するよう連絡。
	五時四〇分	オフトークにより消防団員招集。
	六時三〇分	消防団員、白滝へ出発。大北川方面、白滝方面で道路状況などを調査。
	六時五七分	白滝にある食料について情報収集。朝谷に米約三〇キロとジャガイモや冷凍食品あり。ふるさとむら公社に肉一〇〇パック、全宿泊者の一食分程度の米とカップヌードルがある。
	七時五〇分	前日から白滝待機の消防団員による状況報告あり。村道改良地点は水が一箇所に集まっており、歩いてわたるのは危険。専門的な判断が必要。県庁から救援物資が輸送され、大川村役場に届けられる。このほか、午前中に各方面から救援物資や食料が続々と届けられる。
	八時二〇分	嶺北消防署員五人が到着。
	九時一〇分	嶺北消防署員五人が到着。
	九時二四分	消防団より連絡あり、大北川地区の全員無事を確認。
	九時四五分	船戸小学校教頭より、児童の安全確認ができたとの連絡。
	一一時三〇分	NHK高知放送局が避難所にテレビを提供。
	一一時三五分	自衛隊到着。
	一二時〇〇分	白滝に嶺北消防署員七人、県警六人出発。

日付	時間	事項
八月一九日	一二時三三分	県の防災ヘリよりうま離陸。
	一三時〇〇分	自衛隊員、白滝へ出発。
	一三時一〇分	防災ヘリ一回目の救出。虫垂炎の疑いがある生徒一人と看護婦二人を救出。嶺北中央病院へ搬送。
	一三時四〇分	防災ヘリ二回目の救出。白滝住民一人、教員一人、生徒六人の合計八人。
	一三時五〇分	避難指示解除。
	一三時五五分	白滝拡張工事付近危険なため、消防団員撤退。
	一四時〇〇分	災害対策本部白滝分室開設のため、四人が役場を出発。
	一四時一五分	自衛隊ヘリ、大阪八尾空港出発予定も、悪天候のため大幅に遅れる。
	一四時〇七分	防災ヘリ四回目の救出。生徒一〇人救出。
	一四時一五分	避難勧告解除。
	一四時四三分	防災ヘリ五回目の救出。生徒一四人。
	一四時五九分	防災ヘリ六回目の救出。生徒一四人。
	一五時一三分	防災ヘリ七回目の救出。生徒一四人。
	一五時二五分	防災ヘリ八回目の救出。生徒一四人。
	一六時一五分	防災ヘリ九回目の救出。生徒一四人。
	一六時三〇分	防災ヘリ一〇回目の救出。生徒一四人。
	一六時四五分	防災ヘリ一一回目の救出。生徒一四人。
	一七時〇六分	防災ヘリ一二回目の救出。生徒一八人。
	一七時二〇分	防災ヘリ一三回目の救出。生徒八人。
	一七時三四分	防災ヘリ一四回目の救出。生徒六人。
	一八時〇〇分頃	自衛隊機二機到着。うち一機が白滝の残りの住民を避難所へ輸送。